

今日のトピック 中国経済の回復ペースは加速
11月の鉱工業生産は7%増、小売売上高は5%増
ポイント1 鉱工業生産は7.0%増
小売売上高は5.0%増

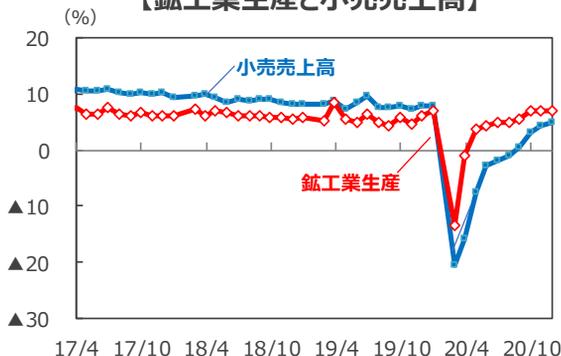
- 中国国家统计局は15日、主要経済指標を発表しました。11月の鉱工業生産は前年同月比+7.0%と、前月の+6.9%から伸び率がわずかながら拡大し、8カ月連続のプラスとなりました。品目別の生産量をみると、コロナショック以降の在宅勤務増加で需要が増えたコンピューター(+25.4%)や、産業用ロボット(+31.7%)などが高い伸びとなりました。
- 11月の小売売上高は前年同月比+5.0%と、前月の+4.3%から伸び率が拡大しました。業種別にみると、新型コロナの影響から飲食業は▲0.6%と引き続き出遅れているものの、新車販売が好調な自動車(+11.8%)に加え、化粧品(+32.3%)や宝飾品(+24.8%)などが堅調でした。

ポイント2 固定資産投資は2.6%増
民間投資がプラス転換

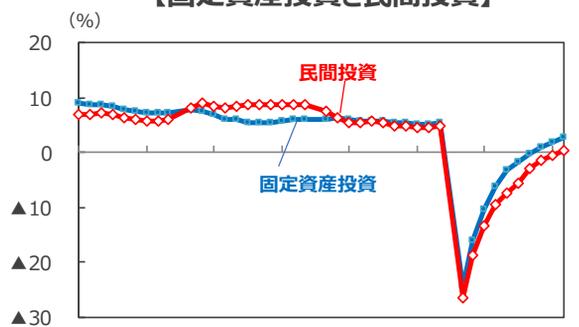
- 1~11月の固定資産投資は前年同期比+2.6%と、1~10月の+1.8%から伸び率が拡大しました。内訳をみると、約6割を占める民間投資が+0.2%と、今年初めてプラスに転換しました。また、不動産開発投資は+6.8%と、6カ月連続で前年を上回りました。

今後の展開 10-12月期のGDP成長率は加速へ

- 11月の主要経済指標はいずれも前月から伸び率が拡大し、中国経済の回復ペースが加速していることを示しました。中国政府は、2020年末まで積極的な財政政策を継続する方針を7月30日の中共中央政治局会議で決定しており、鉱工業生産、固定資産投資ともに伸び率の拡大が続くとみられます。これらに加えて、消費も持ち直していることから、10-12月期の実質GDP成長率(前年同期比)は、7-9月期の+4.9%からさらに加速すると見込まれ、弊社は+6.1%を予想しています。

【鉱工業生産と小売売上高】


(注) データは2017年4月~2020年11月、前年同月比。(年/月)
各年2月のデータは1~2月の年初来累計の前年同期比。
(出所) FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

【固定資産投資と民間投資】


(注) データは2017年4月~2020年11月、
年初来累計の前年同期比。
(出所) FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

**ここも
チェック!**
2020年12月 1日 このところの『中国リスク』をどう考える？
2020年11月12日 運用者の視点：中国の『新エネルギー車』

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。